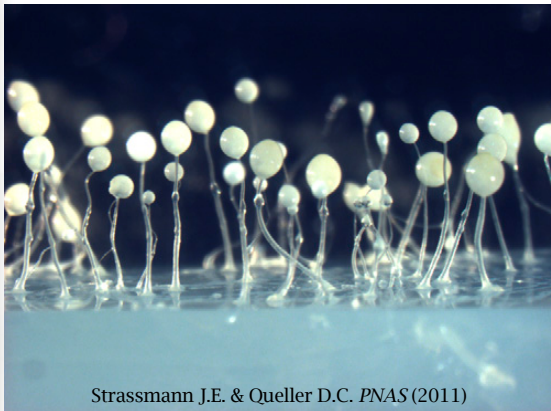


**Evolutionary theory including expression
mechanism of phenotype: evolutionary significance
of the cheater of *Dictyostelium discoideum*.**



Strassmann J.E. & Queller D.C. *PNAS* (2011)

とあるカビの生活史に現れる

「卑怯者」

その進化的意義に迫る

演者：内之宮 光紀 (Kouki Uchinomiya)

九州大学 大学院 数理生物学研究室 M2

講演要旨:

本講演では、キイロタマホコリカビを題材に、分子の効果を組込んだ進化数理モデルを紹介する。キイロタマホコリカビは通常単細胞で生活するが、餌が不足すると細胞が集まり、胞子を飛ばすための器官である子実体を作る。子実体は胞子と柄に分かれており、直接的には子孫を残せない柄の部分は、利他的な性質を持った部位であると考えられている。キイロタマホコリカビには、種内で子実体形成に関する多型がある。その中でも、チーターと呼ばれる変異体は、野生型と混ざって子実体を作る場合には、野生型よりも胞子になりやすい。チーターの中には、単一のチーターのみで子実体を作る場合には野生型と見分けがつかないものもある。これを理解するためには子実体形成に関わっている生物分子や遺伝子を考慮する必要がある。本講演では、子実体形成に関わる生物分子を考慮した数理モデルを紹介し、チーターの進化的意義を評価する。

※講演は英語で行われますが、日本語での質疑も歓迎します。

This talk will be held in English, but we welcome your questions also in Japanese.

=日時=

2012年

6/19(火) 13:30-

=場所=

九州大学 箱崎キャンパス

理学部 3号館 3631号室

(数理生物学研究室)

ご来聴を歓迎いたします。

セミナー世話人：内之宮光紀, 入谷亮介(ポスター)

連絡先:

Lambtani@gmail.com (入谷),

uchinomiya@bio-math10.biology.kyushu-u.ac.jp (内之宮)